

社会・産業インフラシステムの イノベーション創出へ

グループの総合力でトータルソリューションを提供



日立製作所
執行役常務
社会・産業インフラシステム社 社長
鈴木 學

平素より『日立評論』をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

本年2010年は、創業者の小平浪平が日立鉾山の電気・機械修理工場として日立製作所を創業して100年という記念すべき年です。

この節目の年を記念し、『日立評論』では「創業100周年記念特集シリーズ」と題する年間企画を展開しております。その中で本号では、社会・産業インフラシステムを支える技術とITの融合による「社会イノベーション技術」を中心にご紹介いたします。

日立グループは、長きにわたり数多くのお客様に支えられながら各種技術を積み上げ、事業領域を拡大してまいりました。現在、私たちを取り巻く環境は、これまでの100年間に経験したよりも激しく変化し、「地球温暖化」、「人口急増」、「資源エネルギーの枯渇」、「水需要の拡大」、「都市化の進展」など、グローバルな規模で多くの課題が顕在化しています。こうした課題の解決に貢献するため、環境に配慮し、また安全・安心な社会・産業インフラシステムが求められているのです。

例えば、鉄道などの交通システム、水環境を支えるシステム、鉄鋼プラントをはじめとする各種生産システムなどは、新興諸国を中心に需要拡大が見込まれています。

また、すでに一定水準の社会基盤が整った先進諸国・地域においても、高度なITを活用した社会・産業インフラのリノベーションや環境配慮型設備への投資が、今後ますます求められていくでしょう。

日立グループは、社会・産業インフラ事業にITを融合させた「社会イノベーション事業」を注力事業と位置づけ、グローバルな課題を解決するため、グループの総合力を生かしたトータルソリューションを提供していく所存です。私ども社会・産業インフラシステム社では、「産業システム事業」、「交通システム事業」、「水関連事業」などの分野において、高度な制御技術や省エネルギーに対応した幅広い製品群、お客様やパートナーの皆様との協創で培ってきたシステム技術およびエンジニアリングのノウハウを活用し、社会のイノベーションに貢献してまいります。

本号では、日立グループ各社とパートナー企業が連携し、これまで培ってきた実績に加え、未来志向の技術やビジネスコンセプトを紹介しております。次の100年に向けて、読者の皆様が課題を解決するためのご参考となれば幸いです。

ご一読賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。